

## 令和5年度検証会議委員意見抜粋（学校現場の取組み状況等について）

### 【学校いじめ防止等対策委員会の開催など、組織対応について】

- ・いじめアンケートの内容を学校内でどのように報告し、組織で対応しているか地域や保護者の方々には伝わっていないと思われる。どのように対応し、子どもとどう向き合っているかは、お知らせする機会もないし、言葉で説明して理解してもらうのも難しい。（第3回 西海枝委員）
- ・学校の実態や対応等を踏まえないと、いじめの防止対策として本当に効果があるのかが分からない。（第2回 本図委員）
- ・「学級担任に相談した」が高い割合であることは、担任はゲートキーパーとして確実に機能していることの表れだと思う。いじめの相談を受けたときの初動対応ができる教員が求められている。（第3回 氏家会長）
- ・保護者の思いを受け止めながら、適正に対処するには高度なスキルが必要だが、現場では日々求められている。それを教員や教育委員会が理解しているのか。（第3回 村松委員）

### 【いじめ対策担当教諭の取組みについて】

- ・いじめ対策を充足させるために専門の教職員を配置しても、校内全体で何かあった際には違う役割を担っていることもある。そのような課題については、次の期で検討を深めていけたらと思う。（第4回 氏家会長）

### 【研修の校内での共有、成果について】

- ・教員が現場で困っていることを出し合い研修に反映させることが必要だ。（第2回 村松委員）
- ・現場において研修内容がどのように生かされているのか関心がある。教員のいじめ初動対応でうまくできている事例、もしくはうまく行かなかった事例などがあれば教えてほしい。（第2回 氏家会長）

### 【専門職（SC、SSW）の活用について】

- ・教員がいじめの対応に膨大な時間を費やしているのではないか。（第1回 氏家会長）
- ・ソーシャルワーカー、カウンセラーが機能しているケースを知りたい。（第3回 氏家会長）

### 【いじめ防止「きずな」キャンペーンの取組みについて】

- ・きずなキャンペーンは各学校にいい形で降りているのであれば、さらに強調するような後押しは何かできるのか。（第1回 氏家会長）
- ・いじめ防止きずなキャンペーンやきずなアクションについては、学校の状況に応じて活動できるのは大変ありがたい。（第1回 西海枝委員）

### 【保護者、地域との連携について】

- ・家庭や地域へ一層周知していく必要があると思う。リーフレットを配るだけでなく、効果的に活用できている好事例などがあれば広めていくとよい。(第1回 高橋委員)
- ・市民に当事者意識を持ってもらうという以前に、市民には学校でどのような取組みが行われているか伝わっていないと思われる。(第3回 本図委員)
- ・保護者や地域の方々に安心していただくために、仙台市の施策について、教育委員会として発信しているのか。各学校で発信の仕方が違うと思う。(第4回 高橋委員)

### 【会議からの提案を受け、見直しを図った取組みについて】

- ・実際に取り組んで学校現場で感じたことや問題点を、現場目線で確認していくと良いのではないか。(第4回 村松委員)
- ・会議からの提言を展開して、新たに気付きや改善点が出てくると思われる。実際に取り組むのは教職員なので、各学校が実施した際の問題点を吸い上げ、改めて対応を考えていくことが大切である。(第4回 高橋委員)

### 【道徳や特別活動など、学校教育活動全体について】

- ・学校においては、道徳や特別活動を有機的に関わらせて、学校全体の教職員の協力を得て、子ども達の発達段階に合わせて対応していると思われる。実際の状況を知りたい。(第1回 本図副会長)
- ・いじめについて理解するだけでは、未然防止はできず、教員として道徳教育や特別活動を理解して実践できているかによるものと思われる。(第1回 西海枝委員)